事　業　報　告

令和３（2021）年度

社会福祉法人 福島いのちの電話

いのちの電話とは

☆　様々な問題を抱えながら孤独の中で、相談する人もなく不安な生活をし、精神的危機にある人たちが多数います。このような人たちが自殺の危機に追いこまれることがあります。
「死ぬほどつらい、誰かに聴いてほしい」と。

☆　ひとり悩み苦しんでいる人たちが、私たちのまわりには数多くいます。「いのちの電話」は、このような人たちに電話を通じて心を通わせ、よき隣人として相談相手となって励まし合うボランティア活動です。

☆　「いのちの電話」は1953年ロンドンで始められ、現在では世界の主な都市に設立されています。日本では1971年に東京に開設され、現在は全国に50のセンターが設置されています。6,500人以上のボランティア相談員が年間約70数万件の相談を受けています。

☆　「いのちの電話」は、特定の宗教や思想・信条などに左右されず一人ひとりのいのちを大切にして、悩んでいる孤独な人たちのよき隣人として、また相談相手として、共に生きる輪を広げていく運動です。

☆　相談は、専門家による約２年間の研修を受け、認定されたボランティア相談員が担当しています。相談の秘密は厳守いたします。

目　次

1．はじめに …… 1
2．福島いのちの電話概況 …… 2
3．「福島いのちの電話」に寄せられた相談 …… 3
4．令和３(2021)年度事業報告 …… 8
5．令和３(2021)年度資金収支計算書・貸借対照表 ……12
6．令和４(2022)年度事業計画・資金収支予算書 ……14
7．組織図 ……17
8．役員名簿 ……17
9．令和３年度ご支援下さった方々 ……18
10．寄付金等でご支援下さった方々 ……27
11．各種団体等からの補助金・助成金……28

はじめに

日頃より福島いのちの電話の活動に対します深い理解のもと、温かいご支援を頂戴いたしております皆様には、心より御礼申し上げます。お蔭様をもちまして、長引くコロナ禍の中にありましても福島いのちの電話は、365日無休の<通常電話相談>のほか、毎月10日の〈24時間自殺予防フリーダイヤル〉、さらに〈ふくしま寄り添い「予約制」フリーダイヤル〉、そして〈メール相談〉を、恙なく実施することができました。これも偏に、会員をはじめ多くの皆様のご協力の賜であり、改めて感謝申し上げます。

さて、警察庁自殺統計によりますと、令和3年における全国の自殺死者数は20,984人で10年連続減少にストップが掛かった令和2年より97人少ないものの、令和元年の20,169人より815人も上回りました。

この内訳を見ますと、男性は、昨年より135人少なく、12年連続での減少となりましたが、女性は、昨年より38人も多く、これは2年続けての増加となり、先行きの見通しの立たないコロナ禍の状況にあっては、女性の自殺、取り分け女子高校生の自殺が増加している今日の事態が極めて憂慮されるところです。

翻って、福島県の状況を見てみますと、令和2年は、令和元年の360人から3人増の363人となり減少傾向に再びブレーキが掛かったのに対し、令和3年の自殺死者数は令和2年より4人減の359人となりました。自殺統計のデータ分析によりますと、①自殺率が全国平均を3ポイント以上も上回っている、②2013年以降の減少率が鈍い、③19歳以下の自殺死亡率が全国平均より高い、④自殺の理由は「家庭問題」が全国に比べて高い、⑤「同居人あり」の割合が全国に比べて高い割合にある、などの特徴が挙げられています。

新型コロナウイルス変異株の蔓延は、県民に大きなストレスとなっており、感染予防の「3密」を担保した形態となる電話相談でありますことから、「いのちの電話」の活動が、これまで以上に期待されていることを改めて感じているところです。

こうした実態を踏まえ、令和4年度の「福島いのちの電話」における活動方針は、引き続き<電話相談の今後のあり方に関する検討委員会報告>に基づく「相談活動の充実・強化」、「相談環境の整備」、そして新規会員の開拓を中心とした「財政基盤の確立」を図りつつ、若者のコミュニケーションツールとして定着している「SNS相談」についても、その実施の方向性を検討し、これまで手の届き難かった若年層等への寄り添いにも果敢に取り組んで参りますので、今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ここに、改めて皆様のご厚情に対し心より感謝を込め、令和3年度の事業活動等のご報告を申し上げます。

令和４年７月

社会福祉法人　福島いのちの電話

理事長　毋　羽　真　一

福島いのちの電話概況

設　　立：平成 9 （1997）年 9 月 1 日
社会福祉法人認可：平成15（2003）年 8 月25日
組　　織：評議員 9 名、理事 8 名、監事 2 名、特別顧問 1 名、
　　顧問12名、会員850名
電話相談員数：令和 4 年 4 月 1 日現在：135名（実働96名）
電話相談件数：（令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月）：9,531件
電話相談時間：【通常電話】：毎日10：00 ～ 22：00
　　毎月第 3 土曜日10：00 ～翌日10：00まで24時間
　　【日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」】
　　毎月10日　8 ：00 ～翌日 8 ：00まで24時間
　　【ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル】
　　毎日　10：00 ～ 22：00（但し、3 日前までに予約）
　　【日本いのちの電話連盟「全国ナビダイヤル」】
　　毎日　10：00 ～ 22：00
相談受付回線数：2 回線
メール相談：ホームページから相談フォームへ。原則、5 日以内
　　に返信。
相談員養成：相談員養成研修第 1 課程・第 2 課程・第 3 課程（イ
　　ンターン研修）
継続研修：全相談員対象、全体研修（年 2 回）、グループ研修
　　（年10回）、スーパーバイザーによる個別指導（年 1 回）
運　　営：年間予算約17,000千円、財源は主として会員等の会
　　費、寄付金、県の補助金及び公的団体の助成金
全国組織：一般社団法人日本いのちの電話連盟
　　加盟50センター（令和 4 年 4 月現在）

『福島いのちの電話』に寄せられた相談

開局(1997年９月１日）以来、令和４(2022）年３月31日までの24年７ヶ月間に受信した相談電話は、341,323件（男性193,065件女性148,258件）となり、一日当たり約38件の受信件数となります。この間の男女の比率は、男性が57%、女性が43%となり、自殺死者の男女の割合とほぼ似たような割合になっています。

また、震災・原発事故から11年が経過した今、その苦悩や試練に立ち向かい、また復興を目指す方々に寄り添うことを目的として「ふくしま寄り添いフリーダイヤル」を平成29年３月11日に開設し、令和元年５月より「ふくしま寄り添い〈予約制〉フリーダイヤル」として、アウトリーチ的（こちらから電話を掛ける）な展開を行っております。さらに令和２年８月20日からは(福島方式)「メール相談」を新たに開設し、相談ツールの拡充を図ったところでもあります。

○相談件数の推移

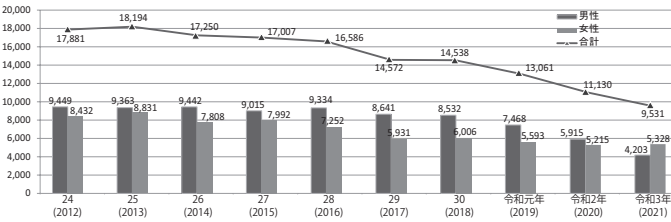
この１年間に寄せられた相談件数は9,531件で、昨年度と比較すると総数で1,599件の減少となっており、男女別の内訳をみると、男性からの相談が4,203件で対前年度比39%の減少に対し、女性からの相談は5,328件で対前年度比２%の増加となっております。

これは、『自殺対策白書』にもありますように、全国的に男性の自殺者数が大幅に減少傾向を辿っている中で、女性の自殺者が増加傾向にあることと軌を一にしているようにも見受けられます。

なお、相談件数が減少しているのは、決して相談件数が減った訳ではなく、最大の理由は、コロナ禍での相談員の外出自粛による相談担当時間の大幅な縮小であり、さらに相談員不足などが原因であると考えられます。

過去10年間の年別相談件数の推移

	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元年 (2019)	令和２年 (2020)	令和３年 (2021)
男	9,449	9,363	9,442	9,015	9,334	8,641	8,532	7,468	5,915	4,203
女	8,432	8,831	7,808	7,992	7,252	5,931	6,006	5,593	5,215	5,328
合計	17,881	18,194	17,250	17,007	16,586	14,572	14,538	13,061	11,130	9,531



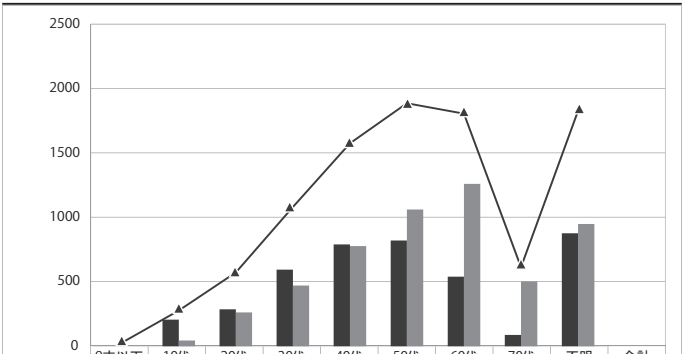
*「福島いのちの電話」は、1997年９月１日に開局いたしました。
*平成23年は東日本大震災のため17日間受信不能となりました。

○相談の年代別特徴

電話相談の件数を年代別にみると50代が最も多く、次いで40代、30代、60代となっています。相談件数に占める男女の年齢別の割合にあっては、男性の場合、50代が19.5%、40代が18.7%、30代が14.2%となり、女性では、60代が23.6%、50代が19.9%、40代が14.6%となっています。

因みに、男性の年齢階級別自殺者数（『自殺対策白書』より）にあっては、50代が17.1%、40代が17.8%、30代が13.3%となっており、女性にあっては、60代が14.1%、50代が15.4%、40代が15.0%となっています。

令和３年度電話相談年代別受信件数



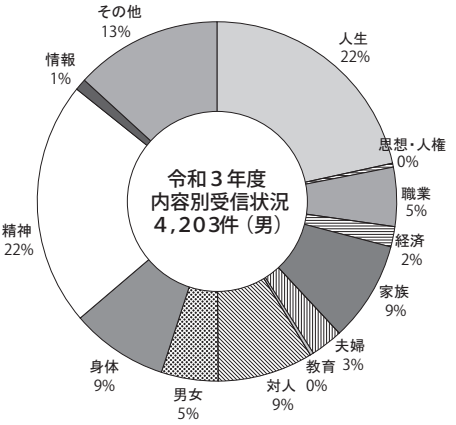
	9才以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
男	0	207	288	595	789	820	540	89	875	4,203
女	0	47	264	472	776	1,060	1,258	504	947	5,328
合計	0	254	552	1,067	1,565	1,880	1,798	593	1,822	9,531

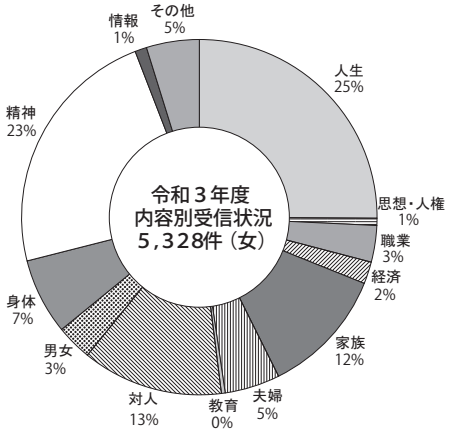
○相談の内容別特徴

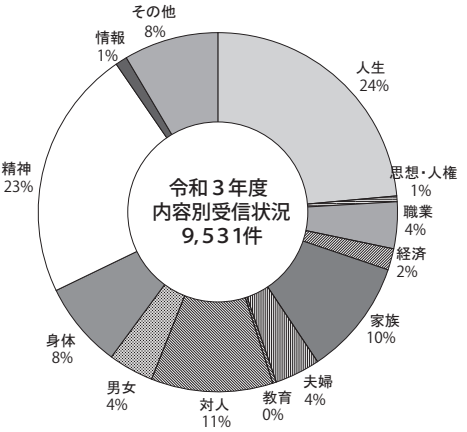
日本いのちの電話連盟の相談内容分類表により分類をした相談結果を内容別に見ると、全体では「人生」に関する相談が最も多く、次いで「精神」に関する相談が多くを占めています。男女別にみると、男性では「精神」・「人生」の順で多く、女性では「人生」・「精神」・「対人」の順で相談が多くなっています。

令和３年度電話相談内容別受信状況

	人生	思想・人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	合計
男	907	15	223	77	379	122	13	361	215	368	924	44	555	4,203
女	1,337	35	177	107	616	268	18	684	174	369	1,230	57	256	5,328
合計	2,244	50	400	184	995	390	31	1,045	389	737	2,154	101	811	9,531


令和３年度
内容別受信状況
4,203件（男）
人生
22%
思想・人権
0%
職業
5%
経済
2%
家族
9%
夫婦
3%
教育
0%
対人
9%
男女
5%
身体
9%
精神
22%
情報
1%
その他
13%


令和３年度
内容別受信状況
5,328件（女）
人生
25%
思想・人権
1%
職業
3%
経済
2%
家族
12%
夫婦
5%
教育
0%
対人
13%
男女
3%
身体
7%
精神
23%
情報
1%
その他
5%


令和３年度
内容別受信状況
9,531件
人生
24%
思想・人権
1%
職業
4%
経済
2%
家族
10%
夫婦
4%
教育
0%
対人
11%
男女
4%
身体
8%
精神
23%
情報
1%
その他
8%

○自殺を訴えた相談件数

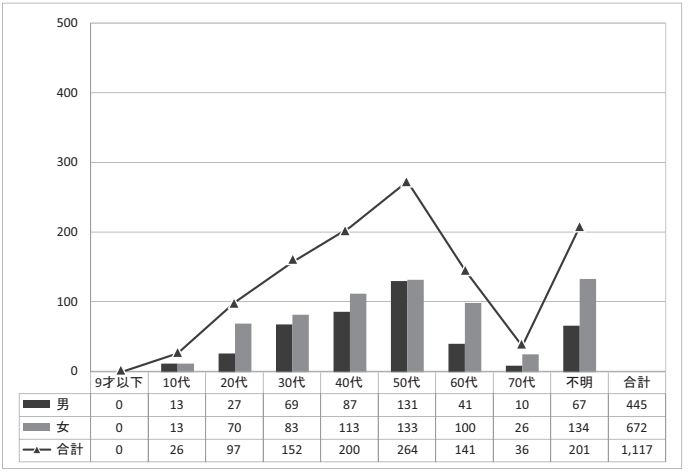
電話相談の中で、「生きているのが辛い」「死んでしまいたい」「生きている意味が感じられない」など、自殺念慮が感じられる言葉を聞くことが多くなっています。自殺傾向のある相談の送受信件数は1,117件で、昨年より85件増加しています。

因みに、自殺傾向の電話は、令和2年度は全体の9.3%であったのに対し、相談件数が16%も少ない令和3年度は、逆に11.7%と2.4ポイントもアップしています。

○自殺傾向の年代別特徴

自殺傾向の電話を年代別にみると、男性では50代が最も多く131件、29.4%。次いで40代が87件、19.6%となっています。女性では50代が最も多く133件、19.8%。次いで40代が113件、16.8%となっています。

令和3年度自殺傾向年代別受信件数

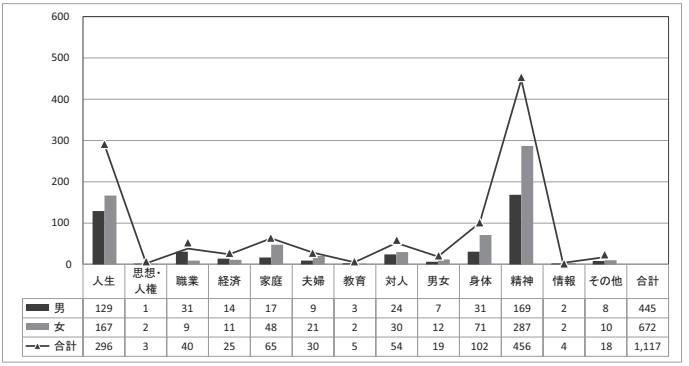


	9才以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
男	0	13	27	69	87	131	41	10	67	445
女	0	13	70	83	113	133	100	26	134	672
合計	0	26	97	152	200	264	141	36	201	1,117

○自殺傾向の内容別特徴

内容別にみると、男女とも昨年と同様に「精神疾患」に関わる相談が最も多く、次いで「人生」「身体」に関わる相談となっています。

令和３年度自殺傾向内容別受信件数



	人生	思想・人権	職業	経済	家庭	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	合計
男	129	1	31	14	17	9	3	24	7	31	169	2	8	445
女	167	2	9	11	48	21	2	30	12	71	287	2	10	672
合計	296	3	40	25	65	30	5	54	19	102	456	4	18	1,117

○全国統一フリーダイヤル自殺予防いのちの電話

厚生労働省の支援による「自殺予防いのちの電話」フリーダイヤルは2007年９月からスタートし、毎月10日午前８時から翌日午前８時までの24時間全国一斉に行っております。

福島センターで、令和３年度、505件を受信しています。

○福島寄り添い〈予約制〉フリーダイヤル

令和３年度の予約件数は､74件（アクセス件数は261件）でした。令和２年度に対し倍以上となった背景には、こちらから電話を掛けるアウトリーチ的対応が、相談者に信頼と安心感を持って貰っていると思われます。

○福島いのちの電話「メール相談」

令和２年８月よりスターとした「メール相談」の令和３年度の受信件数は、延べ96件、返信件数は延べ71件となっています。

令和３(2021)年度事業報告

Ⅰ　主要事業の活動状況

１．電話相談

⑴通常電話相談（024-536-4343(しみじみ)）

・受信時間（毎日）　10：00～22：00

・毎月第３土曜日　　10：00～翌日10：00までの24時間

⑵日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」に参加

(0120－783(なやみ)－556(こころ))

・毎月10日～11日　8：00 ～翌日8：00までの24時間

⑶ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル

(0120－556(こころ)－189(いちばんはやく))

・毎日10：00 ～ 22：00（但し、３日前までに予約。予約時間に、こちらから電話を掛ける）

⑷いのちの電話「全国共通ナビダイヤル」

(0570－783(なやみ)－556(こころ))

・毎日10：00～22：00

＊電話受信総件数（令和３年４月１日～令和４年３月31日）

○総件数：9,531件（前年　11,130件）

〈うち自殺傾向の件数：1,117件【11.7%】（前年1,032件【9.3%】)〉

〈内訳〉福島センター　5,264件（55.2%）

（うち自殺予防フリーダイヤル　505件）

郡山分室　4,267件（44.8%）

○ふくしま寄り添い〈予約制〉フリーダイヤル　74件

（アクセス件数261件）

２．メール相談

・相談メール受信数　96件　　返信文作成数　71件

相談者延べ人数　　96人（男16人、女80人）

〈単位：人、(件)〉

区分／性別	総数	年齢階級							
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	?
男	10(16)	-	3(6)	1(1)	4(7)	1(1)	-	1(1)	-
女	22(80)	-	14(52)	1(4)	2(2)	4(21)	-	-	1(1)
合計	32(96)	-	17(58)	2(5)	6(9)	5(22)	-	1(1)	1(1)

3．相談員養成研修及び継続研修等

⑴第23期生養成研修　第１課程９名、第２課程７名

⑵第22期生養成研修　第３課程５名

⑶相談員継続研修（相談員全員対象）

ア．グループ研修（継続研修）：各グループ毎に月１回開催

イ．全体研修: <コロナ禍で中止>

ウ．個人スーパービジョン：年１回全相談員

4．相談員の認定

⑴継続委嘱相談員数　93名（令和4年４月１日現在）

⑵新規認定相談員数（第22期生）　５名

⑶実働相談員数　96名（令和４年４月１日現在）

5．公開講座の開催

・春季公開講座（相談員募集説明会）

回	月　日	場　所	講　師	参加者
第１回	５月９日(日)	郡山市中央公民館	NPOもやい理事長 大西　連	会場28名、 オンライン13名
第２回	５月15日(土)	福島市民会館	秋田大学教授 佐々木久長	会場25名、 オンライン10名
第３回	５月22日(土)	郡山市福祉センター	NPO理事長 今井　嘉江	会場21名、 オンライン13名
第４回	５月29日(土)	福島市民会館	NPO理事長 若月　ちよ	会場22名、 オンライン10名

6．財政基盤の確立

⑴会員寄附金（会費）の確保

令和３年度の会員寄附金（会費）収入

当年度実績額　9,170,257円（前年度実績額　9,326,337円）

個人会員　2,912,968円（　同　2,519,000円）

法人会員　1,870,000円（　同　2,084,060円）

賛助会員　2,657,047円（　同　3,178,948円）

一般寄付　1,730,242円（　同　1,544,329円）

⑵新規会員の確保

令和３年度末会員数　850名

令和２年度末会員数　875名

（令和元年度末1,760名⇒３年間会費未納者を抹消）

＊令和３年度会費納入会員数　817名(96%)（令和２年度=51%）

⑶補助金・助成金等の実績

①福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金　4,200千円

②福島県新型コロナウイルス対策事業民間団体補助金　3,184千円

③福島県共同募金会配分金　200千円
④日本財団支援金　873千円

7．広報活動の推進
⑴広報紙秋号（58号）及び春号（59号）の発行
⑵相談員募集広報の展開
①春季公開講座広報と併せて実施（民報、民友、リビング新聞等）
②〈予約制〉FD・メール相談広報に併せ実施
（民報、民友、ラジオ福島、FM福島）
⑶ホームページの充実（適時適切な情報を頻繁に更新）
⑷ツイッターの適時適切な内容更新

8．支部活動の推進
・支部総会等の開催　〈コロナ禍により書面総会〉

9．電話相談に関する調査研究
・「東日本大震災・原発事故関連の相談=10年の記録=」（福島支援プログラム補遺）の作成

10. ゲートキーパー養成事業
・令和3年度ゲートキーパー養成事業　受講者246名
⑴ステップアップコース（180分）　本宮市（30名）
⑵プレ・ゲートキーパーコース（90分）4団体（216名）
①三春町（55名）、②棚倉町（43名）、北塩原村（50名）、二本松市（68名）

Ⅱ　役員会、各委員会等の活動状況

1．理事会、評議員会

回	期　日	理　事　会	評 議 員 会
第1回	令和3年 6月10日(水)	①令和2年度事業報告・決算について ②令和3年度予算専決処分について ③評議員会の招集について	
	令和3年 6月24日(木)		①令和2年度事業報告・決算について ②令和3年度予算専決処分について
第2回	令和3年 6月24日(木) （書面議決）	・新3役（理事長・副理事長・業務執行理事）の選定について	
	令和4年 3月24日(木)		①第38回いのちの電話相談員全国研修会について ②令和4年度事業計画・予算について

第３回	令和４年 ３月３日(木)	①第38回いのちの電話相談員全国研修会について ②令和４年度事業計画・予算について ③評議員会の招集について	

２．各委員会等の活動及び各種会議の開催

⑴運営委員会

おおむね隔月ごとに、年間6回開催した。

⑵各委員会

総務財務委員会、広報委員会、研修委員会、相談委員会、調査研究委員会、公開講座実行委員会を定期的に開催した。

⑶認定会議

令和３年４月10日　第23期相談員養成研修受講生審査３名中３名の受講承認、転籍１名

令和３年６月12日　第23期相談員養成研修受講生審査７名中６名の受講承認

令和４年２月27日　第22期生５名認定、更新認定93名、第23期生７名仮認定

Ⅲ　その他事業の実施状況

・福島支援プログラム（日本いのちの電話連盟事業）〈4,375千円〉

１．「ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル」

着信261件、通話完了74件

２．福島方式「メール相談」　延べ96件の相談

（うち返信文作成71件）

３．５年間の事業成果を『レビュー』誌として取りまとめ

令和３(2021)年度資金収支計算書

(2021年４月１日～ 2022年３月31日)

〈収入の部〉 (単位：円)

科　　目	決算額(円)	摘　　要
会員寄附金	7,440,015	個人会員、団体会員、賛助会員
一般寄附金	1,730,242	県民共済、篤志家等からの寄附金
福島県補助金	7,384,000	福島県自殺対策緊急、新型コロナ対策補助金
共同募金等支援会	1,073,000	共同募金配分金、日本財団助成金
受講生負担金	300,000	22期生５名、23期生９名
受取利息配当金	561	預金利息
雑　　収　　入	22,233	コピー代ほか
合　　計	17,950,051	

〈支出の部〉 (単位：円)

科　　目	決算額(円)	摘　　要
事　業　費	8,592,076	相談員養成・継続研修、交流事業、ゲートキーパー講習等
事　務　費	4,048,270	賃借料、通信運搬費、会議費、連盟負担金、事務諸費等
人　件　費	4,197,689	非常勤５名、事務補助パート２名
当期資金収支差	1,112,016	
合　　計	17,950,051	

＊連盟事業〈福島支援プログラム〉＝4,375,000円
(〈予約制〉FD、メール相談、「福島支援プログラム」レビュー誌、ゲートキーパー連携センター)

令和３(2021)年度貸借対照表

(令和４年３月31日現在)

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科　　目	金　　額	科　　目	金　　額
流動資産	2,715,289	流動負債	1,479,701
現金預金	2,324,452	未払費用	1,398,728
未収金	112,643	預り金	80,973
未収補助金	0	固定負債	0
立替金	127,194	負債の部合計	1,479,701
前払費用	151,000	純資産の部	
固定資産	12,678,981	基本金	10,000,000
基本財産	10,000,000	国庫補助金等特別積立金	2,031,475
定期預金	10,000,000	その他の積立金	0
その他の固定資産	2,678,981	次期繰越活動増減差額	1,883,094
建物付属設備	2,349,347	(うち当期活動増減差額)	1,029,766
器具及び備品	16,088		
権利	313,545		
ソフトウェア	1	純資産の部合計	13,914,569
資産の部合計	15,394,270	負債及び純資産の部合計	15,394,270

監 査 報 告 書

令和４年６月３日

社会福祉法人福島いのちの電話
理事長　　丹　羽　真　一　殿

監　事　大出隆秀

監　事　井治正男

私たち監事は、令和３年４月１日から令和４年３月31日までの令和３年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

１　監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその付属説明書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

２　監査の結果

⑴　事業報告等の監査結果

①　事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

②　理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

⑵　計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

令和４(2022)年度事業計画

1．事業計画策定に当っての基本方針

警察庁統計（速報値）によると、令和３年における全国の自殺死者数は20,984人で10年連続の減少がストップした令和２年より97人少なくなったものの、令和１年の20,169人より815人も上回っている。この内容をみると、男性は、昨年より135人少ない13,920人で、これは12年連続での減少となるが、女性は、昨年より38人多い7,064人で２年続けての増加となっている。依然として続くコロナ禍の閉塞状況の中にあっては、女性の自殺死者数の動向が、極めて懸念されるところである。

このように女性の自殺死者数が懸念される状況は、一概にコロナ禍のストレスに原因を求めるというより「日本社会の脆弱性」に目を向けなければならないことであり、取り分け感染予防の「３密」回避の形となる「いのちの電話」の相談活動が、さらに注目され、期待されていることを改めて認識する必要がある。

翻って、福島県の状況をみると令和２年は、令和１年の360人から３人増の363人となり減少傾向に再びブレーキが掛かったのに対し、令和３年の自殺死者数は令和２年より４人減の359人となったが、自殺統計のデータ分析によると、①自殺率が全国平均を３ポイント以上上回っている、②2013年以降の減少率が鈍い、③19歳以下の自殺死亡率が全国平均より高い傾向にある、④自殺の理由は「家庭問題」が全国に比べて高い、⑤「同居人あり」の割合が全国に比べて高い割合にある、などの特徴が指摘されている。

こうした状況を踏まえ「福島いのちの電話」における2022年度の活動方針は、「相談活動の充実・強化」、「相談環境の整備」、「広報活動の充実・強化」を図りつつ、取り分けいのちの電話のミッションである「自殺予防」を一層効果あらしめるため、「ゲートキーパー養成講習」、「メール相談」の一層の拡充を図っていかなければならないこと、さらに維持会員の減少による財源不足も懸念されていることから、新規会員の開拓を中心とした「財政基盤の確立」を最重要課題として取り組むこととする。

さらに、大震災から10年経過に伴い顕在化しつつある〈震災・原発事故の風化〉に対峙するため、日本いのちの電話連盟事業〈福島支援プログラム（①予約制フリーダイヤル、②「メール相談」、③「ストレス・レジリエンス五・七・五」の作成、④SNS相談の検討など)〉を2022年度においても、引き続き取り組むものとする。

2．事業計画の概要

⑴　相談活動の充実・強化

ア．電話相談の実施（毎日、10：00から22：00。月１回毎週第３土曜日は24時間対応）

イ．連盟事業「全国自殺予防フリーダイヤル」への参加
（毎月10日、８：00から翌日８：00まで）

ウ．「ふくしま寄り添い〈予約制〉フリーダイヤル」（「福島支援プログラム」）

（毎日、10：00から22：00。但し、3日前までに予約設定）
エ．メール相談事業（「福島支援プログラム」）
（メールでの相談は5日以内に返信文を送信する）
オ．相談員養成研修
・第23期生の養成（第3課程）
・第24期生の養成（第1・2課程）
カ．相談員研修の充実
① 相談員継続研修
・グループ研修（毎月1回、但し全体研修を実施する月は除く）
・個人スーパーヴィジョン（年1回）
・全体研修（春・秋の年2回）
② 第4期内部リーダー養成特別研修
③ 休務者復務特別研修
④ 研修のあり方検討会報告のフォローアップ
⑤ 外部の研修会等への参加
・全国相談員研修会
・全国自殺予防シンポジウム（未定）
・電話相談学会（未定）
・自殺予防学会（9月9日～11日、熊本市）
・全国研修担当者セミナー

⑵ 組織体制の整備充実
ア．運営委員会及び各委員会等の定例開催による委員会活動の活性化
イ．支部活動の活性化、本部と支部の連携強化
ウ．連盟事業「ゲートキーパー連携センター」との協同

⑶ 財政基盤の強化
ア．資金ボランティア会員の増強
イ．公的助成充実への取組み

⑷ 相談環境の整備
ア．相談員ケア体制の充実（ケアのためのSV、ケア会議の開催等）
イ．相談電話の双方向録音によるスキルアップ

⑸ 広報活動の強化
ア．広報誌発行（年2回発行）
イ．公式ポスターの作成・配布
ウ．ホームページの充実
エ．Twitterによる情報提供
オ．相談員募集広報の強化（新聞、ラジオ広報等）

⑹ 相談内容等の調査研究
ア．相談員のケア体制に関する他センター訪問調査
イ．相談員のケアに関するハンドブック作成

⑺ 公開講座等の実施
・相談員養成の前提となる春季公開講座の開催〈福島市（2回）、郡山市（2回）〉

⑻ ゲートキーパー養成講習の受託
①プライマリーコース〈初心者対象〉
②ステップアップコース〈対象＝プライマリーコース受講修了者〉
③プレ・ゲートキーパー講習〈第1部のみ〉

令和４年度資金収支予算書

（2022年４月１日～ 2023年３月31日）

＜収入の部＞　（単位：円）

科　目	予　算　額	摘　要
会員寄附金	7,000,000	維持会員（個人・団体）・賛助会員（個人・団体）
一般寄附金	1,600,000	篤志家、バザー会からの寄附金を含む
福島県補助金	7,580,000	自殺対策（4,200千円）、新型コロナ（3,380千円）
共同募金会配分金	300,000	ポスター、ストレスレジリエンス五七五増刷
受講生負担金	500,000	23期生6名、24期生養成研修
雑　収　入	40,000	預金利子
合　計	17,020,000	

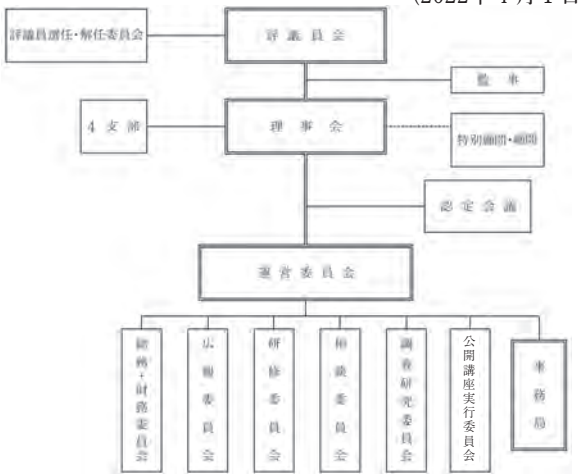
＜支出の部＞　（単位：円）

科　目	予　算　額	摘　要
事業費	8,130,000	相談員研修、公開講座、メール相談、ゲートキーパー講習等
事務費	4,940,000	賃借料、通信運搬費、会議費、連盟負担金、事務諸費等
人件費	3,950,000	非常勤４名、事務補助パート５名
合　計	17,020,000	

＊連盟事業＜福島支援プログラム＞＝4,000,000円
＜予約制＞FD、メール相談、ストレスリジリエンス五七五、SNS相談の検討、ゲートキーパー連携センター運営

社会福祉法人福島いのちの電話組織図

（2022年４月１日）



役員名簿（令和４年４月１日現在）

●特別顧問

遠藤　道雄

●顧　問

遠藤　忠一　　小山　菊雄　　佐藤　勝三　　鴫原　弥
甚野源次郎　　花田　勗　　濱田千恵子　　星野　仁彦
望木　昌彦　　山川　彬　　横山　光衛　　渡部　譲

★評議員会議長

江田　清

★評議員

安齋　睦男　　石橋　真一　　内山　清一　　神戸　信行
藤田　光夫　　平岩　幸一　　村田　純子　　横山　郷彦

☆理事長

丹羽　真一

☆副理事長

栁沼　純子

☆業務執行理事・事務局長

三瓶　弘次

☆理　事

玄永　牧子　　茂田　士郎　　古川　英雄　　堀切　伸一
村上　敦浩

◎監　事

大出　隆秀　　丹治　正男

令和３年度ご支援下さった方々

福島いのちの電話の運営のために、次の方々にご支援いただきました。誠にありがとうございました。これからもご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。　（敬称略、順不同）

１．個人維持会員

藍原　裕子　藍原　政信　青木　英子
アイル薬局住吉店　赤津　雅美　秋元登志夫
阿久津文作　浅香　克憲　浅野桂太郎　穴澤　正行
阿部　新一　阿部　裕光　阿部裕美子　安部　泰男
有馬　博　安斎　征治　飯塚　卓　五十嵐節子
五十嵐千恵　石井　明子　石井　浩　石井　幹子
石下　恭子　石澤　好雄　石原那津子　板垣　茂
板橋　俊子　伊藤　典和　伊藤美知子　伊藤　達也
井上　茂　岩谷　文夫　上嶋　明彦　内山　清一
内山三津男　海野志ん子　江河　佑　江田　清
遠藤　俊博　遠藤　道雄　遠藤　峯男　大石　邦子
大出　隆秀　太田　聖一　岡田　麻紀　小口　潔子
オリオン薬局　会田美智男　加藤みつ子　金澤　博信
金子あき子　亀岡　偉民　香山　雪彦　菅家　俊一
菅家八栄子　菅野　民江　菅野喜美子　菅野　建二
菅野　純紘　菅野　藤江　菅野　光枝　菅野　光代
菊嶋　健一　菊田　則雄　菊地千津子　木村　福一
熊谷郁太郎　熊谷　泰人　熊川由紀子　熊坂　忠則
熊代　永　車谷　栄子　桑名　俊光　黒江　律子
黒沢　秀子　玄永　牧子　小池アサ子　神戸　信行
古関　君子　小林　仁一　小林　健夫　古宮　功子
近藤　哲　齋藤　美佐　坂井　絹代　阪上　通明
鷺　理一　佐々木泰道　佐藤　彰宏　佐藤　温史
佐藤　綾子　佐藤　勝三　佐藤久美子　佐藤　慶吾
佐藤　貞子　佐藤　順子　佐藤　豊子　佐藤富美子
佐藤　正美　佐藤真智子　佐藤百合子　佐藤　雅裕
佐野　勝俊　三瓶千恵子　三瓶　弘次　鴫原ヤイ子
鴫原　弥　茂田　士郎　宍戸　俊子　宍戸　宏行
宍戸　悠子　渋谷　順子　生島　浩　白岩　康夫
甚野源次郎　菅野　和子　鈴木　和子　鈴木　正吾
鈴木　武治　鈴木　忠一　弁護士　鈴木　芳喜

清野　清作　　関口　祐子　　高木恵美子　　高橋　年光
高橋　球子　　高宮　光敏　　竹川佳寿子　　唯木トシ子
田中　照子　　谷口　晶貴　　玉木　仁彦　　田山　晴美
丹治　正男　　丹治千代子　　茶屋　明郎　　束原　康文
辻　　倶子　　寺島　長司　　冨塚美貴子　　永井　久雄
長尾トモ子　　中村　基行　　中村　礼子　　生田目早苗
社会医療法人あさかホスピタル　新国　　茂　　二階堂茂子
二階堂晃子　　西山　江美　　西山　弘子　　丹羽　真一
根本　克治　　野口　尚一　　野地　啓子　　芳賀　　裕
萩原久美子　　橋本　一子　　橋本　　徹　　長谷川　望
羽田　房男　　半澤　トシ　　引地　知子　　引地　正樹
平岩　幸一　　ふくだや薬局　海老根則子　　藤原　正子
洞口　英子　　堀江　征夫　　堀切　伸一　　本田　恵一
幕田　郁子　　増井　寛治　　まちの薬局扇町店　町野　　紳
松井千穂子　　松谷　彰夫　　松本　道子　　美田真理子
水戸　　昇　　皆川　誠吉　　皆川　照子　　宮本しづえ
三宅　祐子　　村越　栄子　　村瀬　久子　　毛利　靖子
望木　昌彦　　森　　綾子　　森　　啓子　　森藤美津子
柳内　　務　　八島　恭子　　安田　武吉　　梁川　優子
山口　信雄　　山﨑誠一郎　　遊佐　久男　　湯澤　伸一
陽田　正夫　　吉澤萬里子　　吉田亜紀子　　吉田　英策
吉田　和代　　吉田　嘉子　　吉田　栄光
吉成内科　吉成　　毅　　渡辺　　厚　　渡辺キヨ子
渡部　啓子　　渡辺　康平　　渡辺　繁雄　　渡部　純夫
渡邊　哲也　　渡邉　文子　　渡邊　又夫　　渡邊　素子
渡辺　義信
渡辺経営コンサルタント事務所　代表　渡辺　雅文
匿名　１名

２．団体維持会員

明るい社会づくり運動郡山地区協議会　会長　渡辺　隆弘
明るい社会づくり運動福島・伊達・二本松地区協議会
一般社団法人　福島県医師会
一般社団法人福島県自動車整備振興会
一般社団法人福島県建設業協会
一般財団法人太田綜合病院
一般財団法人大原記念財団
一般財団法人桜ヶ丘病院

一般社団法人福島県精神科病院協会　会長　星野　修三
一般財団法人竹田健康財団
一般財団法人福島県自動車会議所
一般財団法人ふくしま市町村支援機構　理事長
医療法人社団茶畑会相馬中央病院
石橋建設工業株式会社　代表取締役　石橋　英雄
医療法人板倉病院院長　海野　幸浩
医療法人鎌田クリニック理事長　板垣　　茂
医療法人杏泉堂本間内科理事長　本間　一男
医療法人桑名医院　桑名　俊光
医療法人済精会長橋病院　理事長　本多　幸作
磐城通運株式会社
ＮＯＫ株式会社福島事業場
岩代ライオンズクラブ
大久保クリニック　大久保悟子
オレンジ薬局
株式会社ウインスリーひかり　代表取締役　大内　千春
株式会社　菅家経営センター
株式会社サン・ベンディング福島　代表取締役　千葉　政行
株式会社ジー・アイ・ピー　　株式会社トヨネスト
株式会社　総合コンサルタンツ　代表取締役　最上　　諭
株式会社大丸工務店　　株式会社テレビユー福島
株式会社東邦銀行　　株式会社同仁社
株式会社日新土建
株式会社ハッピーケア　代表取締役　海老根　潤
株式会社ファミリーケア　　株式会社福島銀行
株式会社福島民報社
株式会社ボーダレス総合計画事務所　代表取締役　鈴木　勇人
株式会社松崎
株式会社マルト商事　代表取締役　安島　　浩
株式会社三宅新聞店　代表取締役　三宅　一秀
株式会社　民報アド
株式会社原町自動車教習所
株式会社原町中央自動車教習所
株式会社山川印刷所　代表取締役　立花　志明
株式会社　ラジオ福島
株式会社リオン・ドールコーポレーション
北関東空調工業株式会社　　きらり健康生活協同組合

倉島商事株式会社
公益社団法人福島県看護協会
公益社団法人福島県トラック協会
公益財団法人湯浅報恩会寿泉堂綜合病院
康善寺　　郡山西ロータリークラブ
郡山東ロータリークラブ　　コバックス株式会社
佐藤工業株式会社
社会福祉法人育成会　理事長　高村トミ子
社会福祉法人厚慈会　　社会福祉法人共生福祉会
社会福祉法人昌平黌　　社会福祉法人なごみ
宗教法人安洞院　　真浄院
生活協同組合　コープあいづ　　大蔵寺
東亜自動車学校
東信建設株式会社　代表取締役　佐久間政文
東北電力株式会社福島支店　　東北労働金庫福島県本部
特定非営利活動法人エルタ
日本キリスト教会福島伝道所　　日本基督教団福島教会
日本基督教団郡山教会　　日本基督教団福島伊達教会
ネッツトヨタ福島株式会社　　針生ヶ丘病院
ひろやまメンタルクリニック　廣山　祐治
福島稲荷神社　宮司　丹治　正博
福島県市長会　　福島県信用保証協会
福島県東部自動車教習所　今野　一成
福島県図書教材協会
福島市仏教会会計　野津　太龍
福島信用金庫
福島テレビ株式会社　代表取締役社長　横山　　淳
福島日産自動車株式会社　代表取締役　金子與志人
福島民友新聞株式会社　　福島ヤクルト販売株式会社
福島ＹＷＣＡ　　保原自動車学校
医療法人道済会　みちや内科胃腸科
矢吹自動車教習所　　有限会社タロサ
有限会社福島コスモ商会　　有限会社三晃化学工業所
社会福祉法人緑風福祉会　　立正佼成会茨城教会

３．賛助会員（個人）

青木　英子　　安斎　孝意　　安齋　睦男　　市原　徳子
上嶋　明彦　　宇津木洋美　　大木　　厚

大久保クリニック　大久保悟子　　大和田清司
神山　悦子　　栗林　正樹　　窪　　睦子　　熊川由紀子
熊代　　永　　桑名　利直　　桑名　俊光　　小泉　伸介
佐々木慶子　　佐藤ユキ子　　三瓶　弘次　　宍戸　加代
宍戸　幸雄　　柴山　邦雄　　鈴木　美江　　鈴木　道代
清野　清作　　田中　文博　　玉木トヨ子　　丹治　正男
丹野　一男　　友川　　栄・幸子　　中川　治男
長尾トモ子　　根本　正子　　長谷川尚子　　藤田眞佐夫
松本　　純　　水戸　　昇　　宮本しづえ　　安海　好昭
山際健次郎　　渡辺とくい　　亘理　正明　　匿名３名

４．賛助会員（団体）

ありがクリニック　有賀　　清
一般社団法人福島県医師会
医療法人社団茶畑会相馬中央病院
医療法人社団石福会四倉病院
医療法人敬仁会なかのクリニック
ＮＯＫ株式会社福島事業場　　株式会社環境分析研究所
株式会社菅家経営センター　　株式会社民報アド
株式会社原町自動車教習所
株式会社原町中央自動車教習所
株式会社ジー・アイ・ピー
株式会社トヨタレンタリース福島
株式会社ラジオ福島
学校法人聖光学院　聖光学院高等学校
コングレガシオン・ド・ノートルダム　花園町修道院
生活協同組合コープあいづ　　平中央自動車学校
大蔵寺　　伊達市社会福祉協議会
東亜自動車学校
二本松あだたらロータリークラブ
富久泉工業株式会社　　福島県町村会
堀江工業株式会社　　山口薬品株式会社
有限会社みどり薬局　　鎌秀院竹内文崇

５．喜多方支部・個人維持会員

青山　榮子　　赤城恵美子　　穴澤　高子　　阿部　静子
荒川　節子　　荒川　裕子　　飯塚　　卓　　五十嵐裕美
石川　トミ　　板橋　政博　　一ノ瀬知恵　　猪俣　　慧

上野　啓介	鵜川　晶子	梅宮　大樹	遠藤　貴子
遠藤　忠一	遠藤　長吉	遠藤　次男	遠藤　敏子
遠藤　英昭	遠藤　昌幸	遠藤美智子	大関さち子
大竹小百合	大塚　香子	大塚　里美	大西　美喜
大野　京子	大森志津子	小椋　和洋	小野美知子
笠間　敬子	風間　俊恵	片桐ゆり子	唐橋　和美
唐橋　　通	唐橋　美香	川口　里香	杵渕テル子
草刈　牧子	小荒井　武	小林　弘子	小松　祐子
齋藤マサ子	齋藤　祐子	酒井　彩芳	坂本真理子
相良　静雄	相良　由紀	佐々木恵津子	佐藤　文子
佐藤　美穂	佐藤　　恵	佐藤　有子	佐野　圭一
志田　公司	鈴木　貴子	鈴木ちひろ	鈴木　敏憲
鈴木　優子	須田　栄晋	須田　恭広	須藤　茂樹
須藤　俊弘	清野　弥生	清野　洋一	関本　克聡
高久　俊秋	高橋　敏衛	高橋　美幸	立川　貴之
田中　喜作	田中　幸悦	田中　　詢	棚木　加奈
田部　芳枝	田部　芳子	東條　孝雄	東條千登勢
外島千鶴子	富山　雅子	豊子　光代	生江　恭子
成田　美穂	西　　浩美	二瓶　藤一	原　　倫子
坂内　孝夫	平田　広美	広井トヨ子	藤川美和子
藤澤　廣子	古川　英雄	桝川　　恵	松尾　勝貴
松下　智明	松本　恵美	三橋　彦也	皆川　共子
武藤　顯夫	武藤喜代次	武藤　陽子	村澤　健一
室井麻富花	物江　昌子	安倍　香奈	矢部　　薫
山内智恵子	山口　愛子	山口　史明	山崎三枝子
横澤　栄子	横山　憲一	吉川　　昭	若狭　勝代
渡辺　慶子	渡部　敬二	渡邊　幸子	渡辺　俊明
渡部みい子	渡部　要子		

６．喜多方支部・団体維持会員

喜多方市高郷町民生児童委員協議会
喜多方グリーンホテル
喜多方市民活動サポートネットワーク
喜多方市役所課長会
喜多方市役所部長会
会津喜多方商工会議所
喜多方市豊川町民生児童委員協議会
喜多方市第一地区民生児童委員協議会

喜多方市上三宮町民生児童委員協議会
喜多方市熊倉町民生児童委員協議会
喜多方市松山町民生児童委員協議会
喜多方市関柴町民生児童委員協議会
一般社団法人喜多方医師会
喜多方市女性団体連絡協議会
喜多方市岩月町民生児童委員協議会
喜多方市塩川町民生児童委員協議会
喜多方市慶徳町民生児童委員協議会
喜多方市山都町民生児童委員協議会
喜多方市熱塩加納町民生児童委員協議会
喜多方市第二区民生児童委員協議会
喜多方市食生活改善推進員会
会津よつば農業協同組合

７．喜多方支部・賛助会員

山﨑甚二郎　　菊地　節子　　五十嵐　聡
国際ソロプチミスト喜多方　　武藤　良太

８．南相馬支部・個人維持会員

朝倉美智子　　伊賀　　淳　　石垣　清子　　石橋　三男
江尻　久子　　円谷　仁子　　太田　光秋　　緒方　慎一
金澤　幸夫　　菅野　民江　　熊倉　徹雄　　甲田　政志
佐藤　一男　　佐藤　和哉　　佐藤　清彦　　高根　富三
中尾　誠利　　長岡　利幸　　番場三和子　　平戸　隆子
ほりメンタルクリニック　堀　　有伸　　湊　　清一
三宅　祐子　　村上　勇一　　村田　純子　　村田　秀人
門馬　孝子　　渡部　喜照　　亘理比呂志

９．南相馬支部・団体維持会員

一般社団法人原町青年会議所
関場建設株式会社　代表取締役社長　関場　　啓
東北建設株式会社
株式会社ナプロアース
ニッツーレンタリース株式会社　代表取締役　日下　匡美
日本オートマチックマシン株式会社
原町建設機械株式会社
原町赤十字奉仕団
株式会社原町日通自動車修理工場

特定非営利活動法人ほっと悠
特別養護老人ホーム福寿園
株式会社　北洋舎クリーニング
丸三製紙株式会社
南相馬市原町手をつなぐ親の会

10. いわき支部・個人維持会員

阿部　聖子	岡本　恒夫	金子勢津子	木村　勝美
木村　照典	小堀新一郎	強口　暢子	
塩見　元彦・幸子		志賀　美恵	清水　明美
清水　敏男	鈴木修一郎	高村トミ子	立花　スエ
中野　真理	永井　久雄	馬目　重信	水原美千枝
宮川えみ子	諸橋　義隆	吉田　　泉	藁谷　和子

11. いわき支部・団体維持会員

明るい社会づくり運動小名浜常磐地区協議会　会長　下山田祐司
明るい社会づくり運動勿来地区協議会　内田　一久
有限会社勿来総合開発勿来温泉関の湯

12. いわき支部・個人賛助会員

塩見　幸子

13. 郡山支部・個人維持会員

蛇石　郁子	青山　玲子	厚海　留美	穴澤　初美
安部　和子	阿部　和美	阿部　寿美	網田　雄治
荒井　祐子	安斎　春江	安斎　洋子	安瀬ちえ子
安藤テル子	安藤富美子	飯島　直子	伊佐　香苗
石田　宏寿	井田川春子	伊藤　典子	井上　好恵
岩崎　敦子	岩崎　恵子	岩沢さゆり	岩瀬左代子
磐瀬　祐子	上野　和恵	藤沢　　愛	薄井真理子
浦山　由理	遠藤　君子	遠藤　祥子	遠藤　利子
遠藤美佐子	遠藤めぐみ	遠藤　洋子	遠藤　麻里
大河原輝子	太田　文枝	大田　吉子	大戸　康子
大橋　敏子	大藤しのぶ	大向　昭子	大桃たか子
大森みゆき	大山　和子	岡部　秀子	小山内恵合
押山　文子	面川ハル子	角田　文代	影山かおり
影山　浩美	影山美保子	加納　里美	鎌田　真理
神山　悦子	菅家美和子	菅田伊津美	菅野多美子

菅野　美喜	菅野美由起	菊地かおり	岸波　郁子
城戸　恵子	國定　俊彦	久保木優佳	熊田　純奈
車谷　栄子	桑名　　静	小泉　智子	國分　明子
國分　紘一	小齋　恭子	小柴　尚子	古宮　功子
近藤　チヨ	近藤まち子	近内　利男	後藤英三子
齋藤　篤子	齋藤　榮子	斎藤千代子	齋藤のぶ子
齋藤　マキ	酒井美知子	坂本美佳子	佐久間純子
佐久間きよ子	笹原　和子	郷　　智子	佐藤　恵子
佐藤　豊子	佐藤　正子	佐藤マチ子	佐藤　美枝
佐藤美恵子	佐藤由佳子	佐藤　佳子	佐藤　香織
佐藤　康子	佐原　志保	品川　萬里	白石とも子
白戸亀代子	新林　康行	過足　理香	鈴木　惠子
鈴木　利光	鈴木　待子	関　由美子	添田　啓子
田井さやか	高橋恵美子	高橋　麻紀	高橋　幸子
武田まゆみ	竹林　和子	田中　淑子	田中　澄子
田邊　　実	田母神光男	玉井寿美子	田母神章子
千田香奈子	富永國比古・久美子		永峯　隆子
永山　通子	永山　義弘	名知　幸恵	七海　憲枝
七宮　　仁	西牧　美恵	布川　早苗	根本ヒロ子
根本由美子	芳賀　信子	芳賀　善正	橋本恵美子
橋本　早美	橋本　由美	橋本　昌幸	長谷川美香
八賀　好美	浜津　明美	半沢　　和	馬場　智恵
飛田　弘子	飛田　　操	平尾　由美	冬室加代子
古川　熙子	古川美和子	古川　正子	星　　薫
星　香代子	星　美穂子	増子　郁子	増子　松代
松崎佳小里	三澤可能子	水野　淳子	三津石恵子
宮本　順子	宗形　明子	宗像智恵子	村上千津子
柳内　敏男	柳沼　純子	八代　育郎	八代嘉津子
箭内　喜訓	矢部恵美子	湯田　真紀	横田亀久恵
横田多恵子	横田　百合	横山ユキ子	吉田いくよ
吉田　朋子	吉田　理恵	吉成　妙子	吉成　夏子
渡辺　佳子	渡邉アサ子	渡邉　一美	渡辺　順子
渡辺　真紀	渡部　裕子	渡邉　良子	渡邉　廣孝
渡部恵美子			

14. 郡山支部・団体維持会員

アリタホールディングス　代表取締役　西間木　勉
浅木整形外科医院　　株式会社エフコム

株式会社西部開発　　国際ビジネス公務員大学校
日専連郡山女性部会
医療法人慈繁会　理事長　土屋　繁之
株式会社富久山自動車教習所

15. 郡山支部・賛助会員（個人）

渡邉　　実　　江間久美子　　塩田　絵美　　鈴木　洋子
宗形　善貞

16. 郡山支部・賛助会員（団体）

郡山市保健所保健感染症課
佐藤燃料株式会社
結いの里「竹栁庵」

17. 歳末特別寄附

青木　英子　　秋元登志夫　　浅野桂太郎　　阿部　和美
阿部裕美子　　有馬　　博　　安斎　征治　　安斎　春江
安齋　睦男　　飯島　直子　　五十嵐節子　　石井　　浩
石井　幹子　　石澤　好雄　　石田　宏寿　　内山　清一
海野志ん子　　遠藤　俊博　　遠藤　峯男　　大石　邦子
大木　　厚　　大久保クリニック　大久保悟子
太田メンタルクリニック　太田　聖一　　大田　吉子
大橋　敏子　　大桃たか子　　岡本　恒夫　　小野　節子
金子あき子　　金子勢津子　　香山　雪彦　　菅家八栄子
菅野　民江　　木村　照典　　國定　俊彦　　熊倉　徹雄
小齋　恭子　　小林　健夫　　近内　利男　　齋藤のぶ子
齋藤　美佐　　阪上　通明　　佐々木泰道　　佐藤　勝三
佐藤　順子　　佐藤　正美　　佐藤ユキ子　　佐藤百合子
塩見　元彦・幸子　　茂田　士郎　　宍戸　宏行
渋谷　順子　　甚野源次郎　　鈴木　武治
弁護士　鈴木　芳喜　　関口　祐子　　高村トミ子
立花　スエ　　田中　文博　　玉木　仁彦　　丹治千代子
束原　康文　　永井　久雄　　中野　真理　　中村　礼子
根本　克治　　野口　尚一　　半沢　　和　　平岩　幸一
広井トヨ子　　洞口　英子　　堀切　伸一　　松本　　純
水原美千枝　　三宅　祐子　　村越　栄子　　村瀬　久子
村田　純子　　安田　武吉　　山口　信雄　　湯澤　伸一
横山ユキ子　　吉澤萬里子　　吉田　英策　　吉田　栄光

渡邉　一美　　渡辺　康平　　渡部　純夫　　渡辺とくい
渡邉　文子　　渡邊　又夫　　渡部田鶴子
渡辺経営コンサルタント事務所　代表　渡辺　雅文
明るい社会づくり運動小名浜常磐地区協議会　会長　下山田祐司
ありがクリニック　有賀　　清
一般社団法人福島県医師会
一般財団法人大原記念財団　理事長　佐藤　勝彦
一般財団法人竹田健康財団
一般財団法人福島県自動車会議所
一般財団法人ふくしま市町村支援機構　理事長　遠藤　雄幸
医療法人社団茶畑会相馬中央病院
医療法人社団石福会四倉病院
医療法人鎌田クリニック　理事長　板垣　　茂
ＮＯＫ株式会社福島事業場
オレンジ薬局湯本南店
株式会社環境分析研究所
株式会社サン・ベンディング福島　代表取締役　千葉　政行
株式会社大丸工務店
株式会社トヨタレンタリース福島
株式会社日新土建
株式会社松崎
株式会社三宅新聞店　代表取締役　三宅　一秀
株式会社山川印刷所　代表取締役　立花　志明
北関東空調工業株式会社
康善寺
郡山東ロータリークラブ　会長　佐藤　雄三
佐藤燃料株式会社
社会福祉法人育成会
社会福祉法人厚慈会
社会福祉法人昌平黌
生活協同組合コープあいづ
伊達市社会福祉協議会
有限会社勿来総合開発勿来温泉関の湯
日本基督教団福島教会
日本基督教団福島伊達教会
ネッツトヨタ福島株式会社
富久泉工業株式会社
福島稲荷神社　宮司　丹治　正博

福島テレビ株式会社　代表取締役社長　横山　　淳
福島日産自動車株式会社　代表取締役　金子與志人
福島民友新聞株式会社
福島ヤクルト販売株式会社
福島ＹＷＣＡ
保原自動車学校
山口薬品株式会社
有限会社タロサ
有限会社みどり薬局
鎌秀院　竹内　文崇

18. 一般寄付

五十嵐千恵　　内山　清一　　亀山　綾子　　菅野　光枝
玄永　牧子　　小林　龍生　　今野　孝敏　　佐藤賀津雄
佐藤　沙織　　三瓶　弘次　　茂田　士郎　　宍戸　俊子
宍戸　幸雄　　宍戸　悠子　　清水　啓子　　生島　　浩
田中　照子　　丹羽　真一　　二階堂晃子　　村上　敦浩
横田多恵子　　吉田亜紀子　　渡部信一郎
仙台キリンビバレッジ株式会社
郡山開成ライオンズクラブ
福島いのちの電話バザー会
福島県民共済生活共同組合

各種団体等からの補助金・助成金

福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金
福島県新型コロナウイルス自殺対策補助金
社会福祉法人福島県共同募金配分金
日本財団助成金

あなたもボランティアの仲間になりませんか

相談員になる
会員になる
講演会を聞く…などなど様々な参加方法があります。

福島いのちの電話にあなたの善意を…

いのちの電話の運営資金の多くは、民間の個人・団体（企業）の善意により支えられています。電話相談員の養成費・研修費・施設の賃料などの運営にも充てていますので、ぜひ、あなたも会員として福島いのちの電話を支えてください。

個人維持会員（年額一口）：１万円　５千円　３千円　２千円
団体維持会員（年額一口）：10万円　５万円　３万円　１万円
賛 助 会 員（任意の金額を随時にお寄せください。）

お振込のご案内　名義は社会福祉法人福島いのちの電話です。

郵便振替：02140-7-16968

他の金融機関をご利用の方は、事務局までお問合せください。
「社会福祉法人福島いのちの電話」の会費及び寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。
匿名希望の方は、お申し出下さる様お願い致します。
※優遇措置を受けられる税金（所得税、個人県民税、一部の市町村は個人市町村民税も）
なお、支部の会員となって、支部の口座にお振込みいただくこともできます。（下表をご覧ください。）

喜多方支部	喜多方市上江3646番地1 （喜多方市社会福祉協議会） TEL　0241−23−3231	郵便振替　02210−1−96111 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 喜多方支部
南相馬支部	南相馬市原町区小川町322−1 （南相馬市社会福祉協議会） TEL　0244−24−3415	郵便振替　02140−7−16968 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 南相馬支部
いわき支部	いわき市平字菱川町6−4 （いわき市社会福祉協議会） TEL　0246−23−3320	郵便振替　02290−7−68683 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 いわき支部
郡 山 支 部	郡山市朝日1丁目29−9 （郡山市社会福祉協議会） TEL　080−2843−0268	郵便振替　02140−7−16968 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 郡山支部

年中無休　午前10時～午後10時
（毎月第3土曜日は午前10時から翌日午前10時まで）
ひとりぼっちで悩まずに　TEL **024-536-4343**（しみじみ）

フリーダイヤル　毎月10日 午前8時～翌朝8時
自殺予防いのちの電話　TEL **0120-783-556**（なやみ　こころ）

〈相談時間〉午前10時～午後10時（3日前までに予約）
ふくしま寄り添い（予約制）フリーダイヤル TEL **0120-556-189**（こころ　いちばんやさしく）

〈相談時間〉午前10時～午後10時
ナビダイヤル　TEL **0570-783-556**（なやみ　こころ）

メール相談　ホームページから「メール相談」を送信できます。

〈福島いのちの電話では、掛けてこられた方の相談内容をよりよく聴くために、相談員の研修目的に限り電話を録音しています。〉

メール相談

ホームページ
https://www.fukushima-inochi.com/email-consultation.html

社会福祉法人
福島いのちの電話
事務局／〒960-8691 福島中央郵便局私書箱15号
TEL.024-536-0032　FAX.024-536-2840
URL　http://www.fukushima-inochi.com/